

# 設計教育についての一考察/ 自宅平面図のイメージスケッチと実測図の比較

八代研究室  
00712037 押切 大也

## 1. 目的

本研究では、建築設計教育において「デザインイメージをより正確に描く」ための手法を究明することを目的とする。本稿ではものづくり大学2年1Q「建築計画」の受講者が描いた自宅平面のイメージスケッチと実測図を比較分析し、頭の中のイメージとそのスケッチと実際の物の間にどのような違いがあるかその傾向を考察する。

## 2. 調査方法

学生たちにまずイメージスケッチ、次に実測図をそれぞれ 1:100 のスケールで描かせた。イメージスケッチについては所要時間 5 分間とし描いた順番が分かるよう 2 分、4 分毎に色を変え、3 色で描く。

## 3. 被験者とデータの数

図 1 に示すように受講者 122 名のうちイメージスケッチ提出者 113 名（そのうち実測図未提出者 17 名）実測図提出者 101 名（そのうちイメージスケッチ未提出者 5 名）であり、両図面未提出者が 4 名だった。

描いた順番を確認できるイメージスケッチは、113 名中 88 名であり、その中でアパートや大学のドミトリーなどの共同住宅が 52 名、戸建住宅が 36 名であった。イメージスケッチと実測図を両方提出した中で双方の図面を比較できた図面は 74 名である。

## 4. 事例

図 2 に共同住宅、図 3 に戸建住宅の事例を示す。集合住宅の事例で実際に提出したイメージスケッチは「5分」のものであるが、途中経過も示した。この例では、はじめの 2 分でほぼ全体の空間を描いており、次に本人の生活している自室部分、次に浴室、トイレ、さらに建具等を描くことがわ

かる。実測図と大きさを比較すると建物の外形のスケール感も適格に把握している。

戸建住宅の事例では実際は 2 階部分まで描いている。2 分間で和室やリビングなどの広い空間を描き、その後浴室など図面の上部の部分を描いている。外部のドアの開く方向が逆であり、細部まで正確にイメージできていないように見える。大きさを比較するとスケッチの方が大きくなっている。

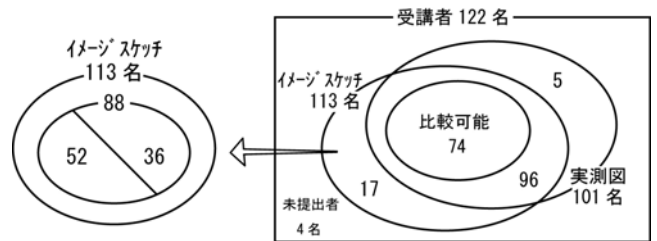
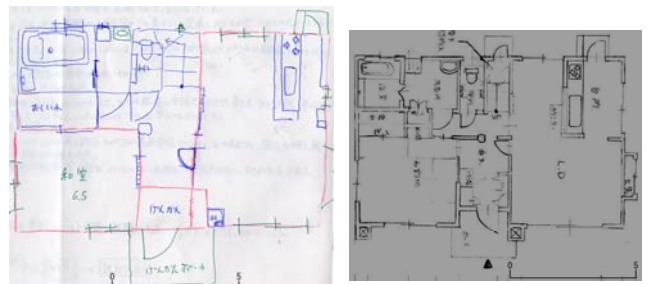


図 1. 被験者とデータの割合



2.1 スケッチ (左から 2分 4分 5分) 2.2 実測図

図 2. 共同住宅の事例



3.3 スケッチ (5分) 3.4 実測図

図 3. 戸建住宅の例 (1階部分)

## 5. 分析結果

図4では、88名のイメージスケッチについて、場所を描く順序を示した。11の要素に分け分析した結果、共同・戸建住宅ともに9割以上の人々が最初の2分間に外壁を描き次に浴室、トイレ空間を描いている。次の2分間で、共同住宅は開口部を描いているが、戸建住宅は個室や玄関を描いている。

図5にイメージスケッチ上方の方位と玄関の位置を示す。88名中、方位を調査できた67名を対象に分析した。北を上にしていない人が3全体の割の19名と最も多く、その他7割は他の方位を上にし

ていた。各方位ごとの玄関の位置を見ると、全方位では玄関を手前に描いていることが顕著である。

図6はイメージスケッチと実測図の外形の比較を示す。両図面のマークを線で結ぶことで外形の歪みを表した。全体的にズレが多く確認でき、特に20㎡前後の縦長の建物では形を誇張し、拡大して描く傾向が読み取れる。

図7はイメージスケッチと実測図の面積の比較を示した。実測図の大きさからイメージスケッチがどれだけ拡大・縮小したのか読み取れ、人数の割合から、小さな建物は大きく描き、大きな建物は小さく描く傾向がある。

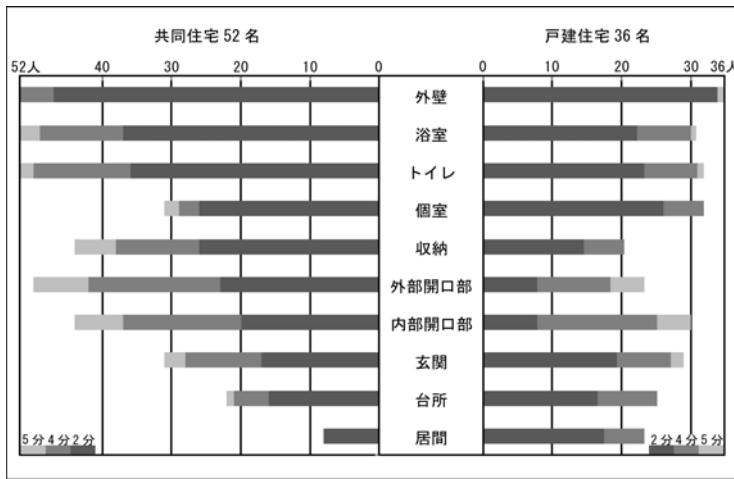


図4. イメージスケッチの場所を描く順序

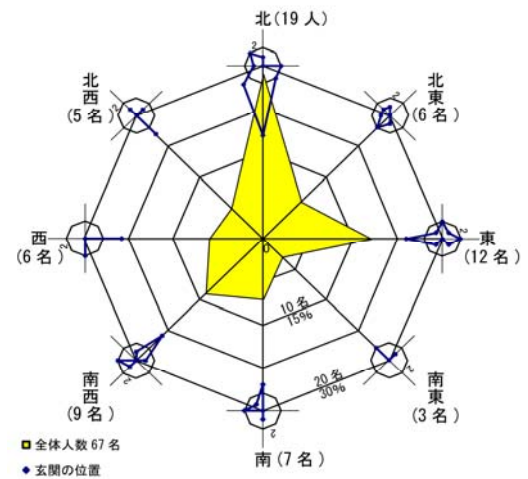


図5. イメージスケッチ上方の方位と玄関の位置

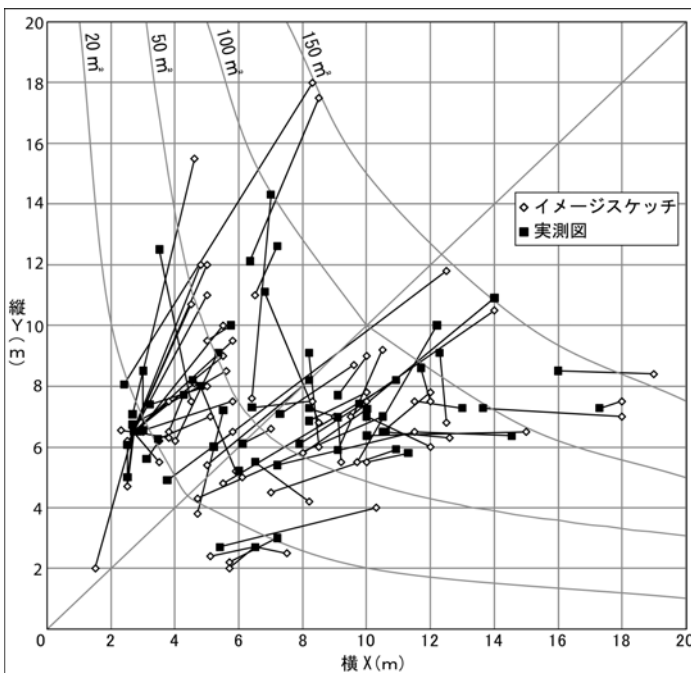


図6. イメージスケッチと実測図の外形の比較

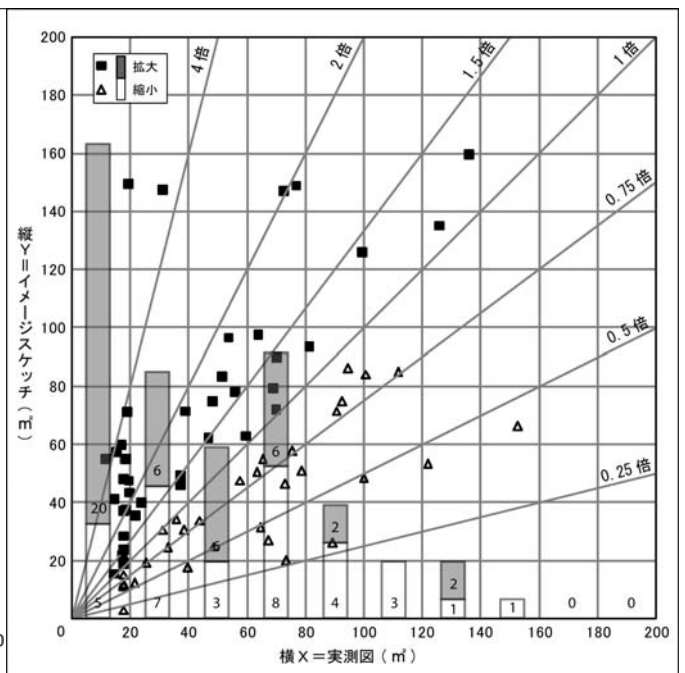


図7. イメージスケッチと実測図の面積の比較